

「子どもたちの可能性」という名の畑に多くの「種」を

校長 白澤 道夫

昨日は、入学式で3名の新入生（本当に立派な態度でした。）を迎え、子どもたち（24名）と先生方（新たに4名の職員が入り10名）が気持ちを新たにして、令和4年度の教育活動をスタートしました。

さて、昨日行われた始業式で、以下のことを子どもたちに話しました。（以下概要）

子どもたちの「限りない可能性」を「畑」に例えます。

畑にひまわりの「種」だけを植えました。

ひまわりは暖かな日差しを浴びてぐんぐん伸び、大きくきれいな花を咲かせました。

しかし、その後、時期が過ぎると花は枯れ、「種」だけが残りました。

（畑には、「他の種」を植えていなかったため、他の花などは咲きませんでした。）

ひまわりの種だけではなく、もっと多くの花や野菜等の種を植えたらよかったですね。

私は、子どもたちが成長するためには、自分の可能性を信じて、チャレンジすることが大切だと考えます。（先述の「種」は「チャレンジ」と言い換えることができます。）

そして、「チャレンジ（＝種）」は、多ければ多いほど成長できると考えます。結果ではありません。この時期は、様々なことに積極的にチャレンジして、自分の可能性を実感し、いっそう豊かにしていくべきだと考えます。

豊かな可能性は、子どもたちの将来において、よりよい選択肢をもたせるはずです。

今年度、一年間をとおして、子どもたちが「自分の畑」にどれだけの「種」を植えられるか。そして大きく大きく育てていけるか。子どもたちと共に職員も学びながら精一杯取り組んでいきます。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響による様々な対策（制限）は、現状を踏まえると今年度も続くといわざるを得ません。しかし、昨年度と同様に、子どもたちのよりよい成長、学校の教育目標の実現に向けて、職員一丸となって「さらに一步踏み込んだ」教育活動に取り組んで参ります。

当校の取組について、保護者の皆様、地域の皆様、関係機関等の皆様の温かいご支援、ご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

